防災で未来をつくる

2020 年度　事業計画

特定非営利活動法人 SEEDS Asia

2020 年 5 月

団体概要

団体のビジョン

災害に負けない持続可能な社会

団体のミッション

最も脆弱な立場にある人々に、命、まち、くらしを守るための適切な手段や技術、知識、スキル、そして他者とのつながりをもたらすこと

活動目的

アジアにおける環境問題や災害に負けない持続可能な人づくり・まちづくり

活動理念

▼SEEDS Asia が大切にしている 5 つのつながるアプローチ

- 政策と行動
- 科学と実践
- 神戸から東北、日本、アジアへ
- 環境とくらし
- 過去・現在・未来

行動規範

- 最も弱い立場にある人々へのリーチ
- 迅速な行動
- 参加型意思決定
- 現地環境・文化への適応
- 非差別的アプローチ
- 個人への配慮
- 秀逸の追求

キーワード

人間の安全保障、防災と開発、持続可能性、アジア太平洋地域、より良い復興、
包括的学校防災、まちづくり、防災の担い手づくり、理論と実践の相乗効果

事務局所在地・連絡先

〒658-0072　兵庫県神戸市東灘区岡本 1-7-7-307
Tel:　078-766-9412　Fax:　078-766-9413

団体設立

SEEDS Asia は 2006 年 9 月より特定非営利活動法人として活動。
2020 年 2 月 17 日に認定 NPO 法人格を取得。

2020年度事業計画

1．基本方針：SEEDS Asia 2030プラン 5つの方針継続

SEEDS Asia10 周年記念会議（2017 年）を機に策定された「SEEDS Asia 2030 年プラン」の基本方針に基づき、専門的で質の高い防災事業の持続的な運営を成し遂げ、仙台行動枠組・持続的な開発目標の達成に寄与します。

SEEDS Asia 2030：5 つの基本方針

- 仙台防災枠組（SFDRR）と持続的な開発目標（SDGs）の達成に寄与し、専門性を活かした質の高い防災事業に取り組みます。
- 事業を通して、SEEDS Asia のブランドイメージを高めるとともに、事業パートナーを介して、そのブランドイメージのアウトリーチを推進します。
- 事業成果をもとに、収益性のある事業の創出を図り、事業収入の増加を図ります。
- 広報強化により、SEEDS Asia の認知度を高め、寄付金等の収入増を図ります。
- 多様化された財源を組織の基盤強化に充て、持続的な事業・広報の実施につなげます。

2. 重点活動：4つの優先行動に基づくSEEDS Asiaの8つの重点活動の推進

国内外で災害が甚大化・頻発化する中、防災はよりその重要性を増している。「SEEDS Asia 2030 年プラン」では、仙台防災枠組の 4 つの優先行動に基づき、SEEDS Asia として日本を含めたアジアにおける経験や知見を活かし発展させる 8 つの重点活動を推進し、以下のとおり年度目標の達成に取り組むこととする。

一方、SEEDS Asia 2030 年プランの策定から 5 年が経過し、内部モニタリングを推進する中で、成果を測る指標については不足点が見られる。2020 年の事業実施の中で、各プロジェクトや重点活動の成果を測る共通の指標の開発を通じた SEEDS Asia 基準の確立、質の確保並びに適正かつ効果的な活動推進に向けたテクニカルアドバイザーの起用を進めていくことが事業実施の上で求められることが明らかになった。さらに、2020 年の新型コロナウイルスの影響により、従来の活動や手法を想定した数値目標の変更が今後生じる可能性が高く、新たなツールやメディアを活用した手法の開発による目標の達成が必要である。

1） 仙台防災枠組 2015-2030 4 つの優先行動と SEEDS Asia 8 つの重点活動「2030 年プラン」

災害リスクの理解促進	レジリエンスを高める防災への投資	災害リスクガバナンス強化	備えの強化と「BBB」
災害リスクの高い地域を中心に、現地の状況やニーズに応じた防災知識や技術の普及・防災意識の啓発を実施します。	レジリエンスを高めるための研究者への支援や共同研究等の促進により、事業と研究のシナジー効果を生み出します。	対象地地域に於ける学校や地域住民による災害リスク管理の体制を強化・推進するため、指導員を育成すると共に、防災計画の推進に向けた体制と計画整備を支援します。	緊急支援に始まる復興プロセスの各段階に応じ、災害前よりもレジリエントな状態を目指した活動を展開します。また、緊急時にも社会的な脆弱層を視野に入れた人道支援の国際基準に基づく支援をおこないます。
防災/環境教育・啓発	防災研究・調査促進	防災指導員育成	緊急支援・避難者支援
ツールの開発	より安全な建設の推進	防災管理体制強化・促進	コミュニティ防災

2) 2020 年度の 8 つの重点活動実施と達成目標の設定

重点活動 8 項目の 2030 年目標に向け、各活動の達成度を計る指標を下記のとおり定めた。また別途目標を達成するための戦術についても別途設定した。

①防災/環境教育・啓発：

目標：2030 年までに、SEEDS Asia はアジアにおいて、開発したツールを活用して 5 万人への防災教育機会を提供します。

- MKRC やツールキット（ミャンマー、フィリピン） の継続的オペレーション
- 防災活動センター（ミャンマー6 か所、インド 1 か所） の継続的活用/新規設立
- プログラムの共有・改善の機会を持つ
- 明確な定義の設定：アウトリーチ（入館数/参加数 何らかの記録）

②ツールの開発：

目標：2030 年度末までに、SEEDS Asia は事業地全てにおいて現地で継続的な運用（資金調達/現地予算化）を可能にする防災啓発ツールを開発し、継続・改善システムを構築します。

- 日本にて SDGs について学ぶツールづくり（防災との関連性を強調）とアジアへの横展開によるコンテンツの充実
- バングラデシュにてメディアを通じた防災啓発ツールの作成
- インド、ミャンマー等で開設した防災活動センターや MKRC 教材の改善・開発
- 各場所での避難所活用に係るツールの開発・カスタマイズ化

③防災研究・調査促進：

目標：2030 年までに SEEDS Asia は アジア共通の課題あるいは、各国の取り組みの効果や教訓に関連する研究論文を最低 10 本は発表し、学術的貢献を図ります。

- 各プロジェクト、各一本の論文の作成（共著含む）
- 各プロジェクト、重点活動の成果を測る共通の指標の開発を通じた SEEDS Asia 基準の確立

④より安全な建設の推進：

目標：2030 年までに SEEDS Asia は質の高い学校・避難所を建設・改善/整備することによって、シェルターの改善を行うとともに、より安全な建設の実現に向けた政策的貢献を図ります。

- 建設監理者の確保（SEEDS Asia 専門家）

⑤防災指導員育成：

目標：2030 年までに SEEDS Asia は各国の状況に応じた防災計画（学校・地区・行政など）の担い手 1.5 千人を育成します。

- SEEDS としての担い手基準の確立
- 学校防災計画ひな形完成（各地でカスタマイズ可）
- 地区防災計画（内閣府）基準＋SEEDS 独自基準
- 計画づくり研修のパッケージ化

⑥防災管理体制強化促進：

目標：2030 年までに SEEDS Asia は各国の状況に応じた学校防災計画・地区防災計画のひな型を状況に応じて 150 箇所で作成・カスタマイズすると共に、対象地・区域の普及 100%を目指します。

- ひな形作成（指針）→拡大システムを確立する
- 地区防災計画の事例研究（妥当性/有効性）
- 国・地域防災計画との整合性を各場所で検討する

⑦緊急支援・避難者支援：

目標：2030 年までに SEEDS Asia は、事業を展開したことのある国で甚大な被害が発生した場合、緊急支援を実施できる人的ネットワークと金銭的リソースを確保し、迅速な緊急支援を展開します。

- 実施国の Brand Ambassadors の組成
- 定期的な国際会合の実施による情報共有・改善（2020 年）
- 緊急支援チームへのトレーニングと教材づくり
- 緊急支援の稼働基準の設定（新しい国：JPF で検討、実施中の国：地域内で発生の場合にはカウンターパートとの協議に応じておこなう）

⑧コミュニティ防災促進：

目標：2030 年までに SEEDS Asia は、今後 30 年以内に 70%以上の確率で甚大な被害が予測されている「未災地」での活動を 5 か所で実施し、備えの強化を推進します。

- 「未災地」ニーズの発掘（文献研究・講演などのつながり・行政からの紹介をフォローする）

3) 2020 年度の達成目標と活動内容

4 つの優先事項	8 つの重点活動	2020 年度の達成目標と活動内容
災害リスクの理解促進	①防災/環境教育・啓発	**目標：3,160 人への防災教育や啓発の機会を提供する** （日本 60 人、ミャンマー1,000 人、フィリピン 100 人、バングラデシュ 1,000 人、インド 1,000 人）。 ● 移動式防災教室による啓発プログラムの実施（ミャンマー、フィリピン、パキスタン、フィリピン） ● 防災活動センターによる啓発プログラムの実施（ミャンマー、インド、ベトナム） ● 大学やシンポジウム、団体イベントでの講義・講演活動
	②ツールの開発	**目標：日本において各事業地のベースとなる防災教育・啓発のツールを開発する** ● アジアで横展開していくための SDGs について学ぶツールづくり（日本） ● 「建設の心得」作成（④共通）
レジリエンスを高める防災への投資	③防災研究・調査促進	**目標：事業の効果や教訓、アジアの共通課題について研究論文・出版物を発表する** ● 各事業の効果的な事業の実施に関わる研究・学術界及び科学研究機関との連携を進める（バングラデシュ、ミャンマー、フィリピン、日本）
	④より安全な建設の推進	**目標：教育継続を可能にする避難施設の普及と SEEDS Asia のミニマムスタンダードの基盤を整備する** ● 学校兼シェルター/避難所ホール建設（ミャンマー） ● 「建設の心得」の完成（ミャンマー） ● 「学校兼シェルター使用時の〇か条」への取組み（ミャンマー）
災害リスクガバナンス強化	⑤防災指導員育成	**目標：学校・地域・行政の担い手 98 名を達成** ● 学校防災指導員の育成（ミャンマー継続、バングラデシュ） ● コミュニティ防災指導員の育成（ミャンマー、日本・長野）

	⑥防災管理体制強化促進	**目標：学校防災計画・地区防災計画における国際基準を満たした SEEDS Asia ミニマムスタンダードの基盤を確立する** ● 学校防災計画作成（ミャンマー、日本・鳥羽） ● 地区防災計画につなげていく地区復興計画（日本・長野）
備えの強化と「BBB：より良い復興」	⑦緊急支援・避難者支援	**目標：各事業実施国で積極的に事業実施に関与し、防災や緊急時の活動の担い手として、資金や人的リソースを集約できる人材を任命・ネットワーク化するための基盤を整備する** ● SEEDS Asia テクニカルアドバイザーの組成と協議の開始
	⑧コミュニティ防災促進	**目標：災害による被害が予測されている未災地での活動を展開する** ● 学校からコミュニティへのアプローチ（バングラデシュ） ● ワーボチーボ村のコミュニティ防災の開始（ミャンマー）

3. 特定非営利活動にかかる事業（国・プロジェクト別）

3－1：人材育成事業・その他事業に付随する活動

(1) ミャンマー

1）ヒンタダ地区における地域との連携による包括的学校防災事業

活動地域	ヤンゴン地域、エヤワディ地域
期間	2020 年 3 月～2021 年 2 月
従事者	10 名（現地職員含む）
受益対象者	地域住民、対象小学校の教職員および学生、教育省、社会福祉救済復興省・災害管理局等の行政機関、防災教育関係団体職員など
資金支援	外務省（日本 NGO 連携無償資金協力事業）
SEEDS Asia 2030	防災/環境教育・啓発、より安全な建設の推進、防災指導員育成、防災管理体制強化促進、コミュニティ防災

SDGs との関連性	

事業内容：
対象地のヒンタダ地区は、ミャンマーの主要河川エヤワディ河が分岐するデルタ地域の起点にあり、洪水の常襲地となっている。2018 年度から実施している包括的学校防災事業の第 3 年次事業として、今年度は昨年度に学校・コミュニティ防災活動と避難所ホール建設を実施したナベーゴン村と同様に洪水時の教育継続が困難なワーボチーボ村にて安全な学校兼シェルターの建設と防災の人材育成をおこなう。また、これらの建設事例をより広い対象に理解・実践してもらうために「建設の心得」を編纂し、デザインや施工のポイントについて広くノウハウを共有するツールづくりに取り組む。

2）ヒンタダ地区における防災給水事業（予定）

活動地域	ヤンゴン地域、エヤワディ地域
期間	2020 年 11 月～2021 年 6 月（予定）
従事者	14 名（現地職員、ロータリークラブ関係者含む）
受益対象者	地域住民、対象地域の教職員および児童・生徒、村落開発局等の行政機関
資金支援	ロータリークラブ（予定）
SEEDS Asia 2030	防災/環境教育・啓発、より安全な建設の推進、防災指導員育成、防災管理体制強化促進、コミュニティ防災
SDGs との関連性	

事業内容：
対象地の洪水常襲地レチョン村郡では、洪水時の浸水で井戸が使用できなくなるという問題が毎年発生すると共に、乾季には水質の汚濁が報告されていた。そこで、WHO 基準の水質を満たす水源確保と共に、洪水時も使用できる全天候型の給水施設を建設し、水と衛生、防災研修を行い管理体制を整備する。

3）学校津波防災事業（予定）

活動地域	エヤワディ地域

期間	2020 年 10 月～2021 年 2 月（予定）
従事者	14 名（現地職員、UNDP 関係者含む）
受益対象者	対象小学校の教職員および児童・生徒、教育省、社会福祉救済復興省災害対応局等の行政機関
資金支援	国連開発計画 UNDP（予定）
SEEDS Asia 2030	防災/環境教育・啓発、防災指導員育成、防災管理体制強化促進
SDGs との関連性	1 貧困をなくそう　4 質の高い教育をみんなに　13 気候変動に具体的な対策を　17 パートナーシップで目標を達成しよう

事業内容：
エヤワディ地域の津波が想定されている地域の学校で、避難計画並びに学校防災計画の促進活動をおこなう。

(2) バングラデシュ

1）北ダッカ市における学校を中心とした地域の災害対応能力向上支援事業

実施地域	北ダッカ市
期間	2020 年 3 月～2021 年 2 月
従事者	7 名
受益対象者	モデル校の学校運営委員会・教員・生徒、地域住民
資金支援	外務省（日本 NGO 連携無償資金協力事業）
SEEDS Asia 2030	防災/環境教育・啓発、防災指導員育成、防災管理体制強化促進、コミュニティ防災
SDGs との関連性	1 貧困をなくそう　4 質の高い教育をみんなに　6 安全な水とトイレを世界中に　11 住み続けられるまちづくりを　13 気候変動に具体的な対策を　17 パートナーシップで目標を達成しよう

事業内容：北ダッカ市では、火災による被害が年々増加している。2019 年 2 月に発生した大規模火災では、住居用アパートの一室を火薬倉庫として使用しており、そこが火元となり 69 名の死者が出る大惨事となった。建物の不適切な管理と相まって、ダッカ市内は道路も狭く、日常的な交通渋滞の発生により災害時に消防車が現場への到着が遅れ消火活動ができないこと、また、ダッカ市民が火災の発生原因、初期消火の重要性と方法（消火器の使い方等）を知らないことが、火災発生や被害

の増加につながっている。本事業では、子どもの頃から防災について学ぶ機会を提供することの重要性に着目し、学校内の防災基礎インフラを整備し学校内の防災管理・防災教育能力を強化することで子どもの防災リテラシーを育みつつ、地域住民の防災拠点を確立するとともに、市民に対するメディアを通じた啓発ツールの作成を進め、北ダッカ市の住民の災害対応能力向上を目指す。

(3) フィリピン

1） フィリピンの被災地における災害遺構整備と気候変動へ対応した防災教育による学校防災強化事業

実施地域	セブ州
期間	2021 年 1 月～2023 年 12 月
従事者	8 名
受益対象者	学校の教職員及び児童、行政機関、対象地域住民、地域団体など
資金支援	JICA 草の根（地域活性化特別枠）
SEEDS Asia 2030	防災/環境教育・啓発、防災指導員育成、防災管理体制強化促進、コミュニティ防災
SDGs との関連性	

事業内容：

2013 年 11 月に発生した台風ハイエン（ヨランダ）の被災地であるセブ州において、過去の災害の教訓と地域ごとの気象情報の理解促進を通じた「命を守るための判断基準」の確立を目指す。先行する 2 つの事業に引き続き、フィリピン国教育省第 7 地方事務所及び兵庫県教育委員会と協働で実施する。フィリピンでは過去の悲しい出来事について話すことを避ける傾向にあるが、台風ヨランダを契機に、教訓を未来に伝える重要性が認識され始めている。兵庫県は阪神・淡路大震災からの教訓を伝える災害遺構を各地に有し、これらを踏まえた学校教育が展開されていることから、その知見を現地に共有し災害遺構の整備に取り組む。また、フィリピンでは気象情報のメッシュが大きく、正しい気象理解が普及していないことから、SEEDS Asia や専門家により、ローカル化された気象情報と災害対応プロトコルの発動基準に関するトレーニングを実施する。

(4)国内

1）地域資源の再発掘による復興まちづくり人づくり

実施地域	長野県長野市
期間	2020 年 6 月～2021 年 3 月
従事者	2 名
受益対象者	地域住民
資金支援	ジャパン・プラットフォーム
SEEDS Asia 2030	緊急支援・避難者支援、防災指導員育成、コミュニティ防災
SDGs との関連性	

事業内容：

台風 19 号による千曲川の氾濫で大きな被害を受けた長野県長野市長沼地区は、今後も起こり得る災害の脅威にさらされていることに加え、今回の災害からの復興期・復興後のまちの在り方を問われている。そこで、本事業では住民主体の復興まちづくりに向けた知見の共有（リレー講座）を通じ、同地区が主体的に復興計画の策定及び更新に携わる能力強化を目指す。

3－2：その他事業に付随する事業

(1)広報

実施地域	特定非営利活動法人 SEEDS Asia 本部（神戸）
期間	2020 年 4 月～2021 年 3 月
従事者	理事・アドバイザー有志、事務局
受益対象者	N/A

より多くの方に SEEDS Asia の活動を知ってもらい、支援していただく、あるいは協働で事業を実施したいと思っていただくために、2019 年度に作成した**広報ツールの印刷と支援者増加に向けた活動を、広報タスクフォースを中心としておこなう**。さらに、昨年度に抽出した SEEDS Asia のキーメッセージや SEEDS Asia の 5 つのアプローチ等、特長を表現し、より信頼を高めるホームページの作成、facebook への情報掲載の仕方の再検討やレビュー、ニュースレター発行の継続と改善、国内外における各防災に関わるイベントや講演に参加するなど広報活動を実施する。また、各事業で作成したツールを Web 上

で公開する。

(2)講演、研修

実施地域	日本の各地
期間	2020 年 4 月～2021 年 3 月
従事者	5 名
受益対象者	一般、大学・高校の学生、教員、援助関係者など

シンポジウムや学校の授業などを通してアジアや日本の災害と現状、防災教育、コミュニティ防災等についての講演や研修を依頼に基づき実施する。

(3)組織強化

認定 NPO 継続に向けて賛助会員 25 名、団体賛助会員一団体（企業）を 2020 年度の目標とする（現在 9 名、一団体）。また、内部共有システムの改善、各スタッフの研修や講演への参加を促進する他、事務所が属する地域コミュニティとの連携・活動を通じてスタッフの能力強化を継続指摘におこなう。

SEEDS Asia 事務局

〒658-0072　兵庫県神戸市東灘区岡本 1-7-7-307
Tel:　078-766-9412
Fax:　078-766-9413
Email: rep@seedsasia.org
Website: http://www.seedsasia.org